

《技術報告》

²⁰¹Tl 心筋シンチグラフィにおける SUNY4001 負荷法の
臨床第 III 相試験
運動負荷法とのクロスオーバーによる比較

西村 重敬*1,	西村 恒彦*2,	山崎 純一*3,	土井 修*4
小西 得司*5	岩崎 忠昭*6	梶谷 定志*7	福山 尚哉*8
赤石 誠*9	加藤 和三*10,	中島 光好*11,	

要旨 労作性狭心症および労作性狭心症が疑われる患者 31 例ならびに健常成人志願者 10 例を対象として、²⁰¹Tl 心筋シンチグラフィにおける SUNY4001 (アデノシン) 負荷の有用性を運動負荷と比較検討した。同一被験者にクロスオーバーにて本剤負荷および運動負荷 ²⁰¹Tl 心筋シンチグラフィを施行し、心筋虚血の有無を判定した結果、両負荷方法の虚血診断の一致率は 97.3% (36/37) であった。本剤負荷に伴う主な症状は、血圧低下 7.9% (3/38)、顔のほてり 7.9% (3/38)、頭重感 7.9% (3/38) であった。一方、運動負荷に伴う主な症状は、ST 低下 31.6% (12/38)、呼吸困難 10.5% (4/38)、胸痛等の胸部症状 10.5% (4/38) であった。負荷方法間で有害事象発現率に有意な差は認められず、重篤な有害事象も認められなかった。

以上より、SUNY4001 負荷 ²⁰¹Tl 心筋シンチグラフィは運動負荷 ²⁰¹Tl 心筋シンチグラフィと同等の虚血診断能および安全性を有することが確認された。

(核医学 41: 143-154, 2004)